

03 5つの自治体と連携 ひろがるまちの輪



今年のきよせ市民まつりにはフレンドリータウンや交流地域からの出店が集まりました。北海道津別町の人気スイーツ「クマヤキ」をはじめ、福島県北塩原村の新米や農作物、北海道音威子府村の工芸品など、各地の味覚が勢ぞろい。行列ができるブースもあり、来場者は清瀬にしながら旅気分を楽しみました。まちとまちが支え合い、笑顔でつながる、そんな清瀬らしさが感じられる交流となりました。

02 親子でわくわく ミニSLとボンネットバス



けやき通りには、子どもたちに人気のミニSLとボンネットバスが登場しました。ミニSLは約100mのレールを走り、乗客たちの笑顔がはじけます。長野県坂城町からきた昭和レトロなボンネットバスは、けやき通りから市役所通り、志木街道をゆっくりと周遊。30分間隔で運行され、車窓から見える秋のまちなみを楽しむ親子連れの姿が印象的でした。懐かしさと楽しさが交差する、まつりならではの特別な体験です。

05 まちの新しい顔、誕生 きよせ市観光大使



これまで活動してきた「清瀬親善大使」が、新たに「きよせ市観光大使」として生まれ変わりました。ステージでは任命式が行われ、4人の観光大使が登場。会場からは温かい拍手が送られました。任命状には「清瀬市の交流人口の増加、地域の活性化及びシビックプライドの醸成に向けた活躍を期待します」との言葉が添えられています。清瀬の魅力を伝える新たな担い手として、これからの活躍に期待が高まります。

04 清瀬の歴史を体感 受け継がれる下宿ばやし



市指定無形民俗文化財の「下宿ばやし」が、今年もまつりを盛り上げました。江戸時代から続く伝統の音色がけやき通りに響き渡ると、足を止めて見入る人の輪が広がります。威勢のいい太鼓や笛の音、華やかな囃子連の掛け声に、清瀬の歴史と誇りを感じるひととき。世代を超えて受け継がれてきた地域の文化が、まちの賑わいの中でも今も息づいています。



踊って
食べて
出会って

まちににぎわい、
きよせ市民まつり

/2025\

清瀬の秋を彩る恒例行事「きよせ市民まつり」。43回目を迎えた今年も、けやき通り一帯が笑顔と活気に包まれました。おいしい匂いと太鼓の音が通りを満たし、子どもから大人まで思い思いに楽しむ姿があふれました。まちがひとつに染まった、にぎやかな秋の一日をふりかえります。

01 まちがひとつになる 市民が主役のステージ



今年の市民まつりでは、例年のメインステージに加えて第2ステージが新設され、より多くの市民団体や個人が日頃の成果を披露しました。太鼓や民謡、ヒップホップやフラダンスなど、多彩なジャンルが次々に登場。観客の手拍子や歓声が通りに響き、ステージと客席がひとつにつながる瞬間も。清瀬らしい温かさとエネルギーに満ちた、笑顔あふれるステージとなりました。